

業務改善報告書



件名	ICT機器の活用による業務の省力化、職員の負担軽減	法人名	メディカル・ケア・サービス東海(株)
		報告者名	管理者 百々 俊介

1 提案概要

ICT導入は介護現場の「質」と「効率化」を両立している状態が重要と考えます。高齢化と人材不足が深刻化する中でICT導入は「働きやすさ」「ケアの質」を両立し、より入居者様の事業所での生活が充実でき、生活を送る事ができると仮定しました。

法人単位でのICT導入は様々ではありますが、グループホーム(認知症対応型)で必要とされる、個別ケアに重点を置く為に職員の時間を生み出す(時間効率)、認知症高齢者の皆さんへのストレス緩和を目指します。

2 現状と問題点(改善前)

【ケア以外での業務、時間の発生】

- ・介護記録時間・・・紙ベースでの個別での介護記録を活用している事で書く時間の確保、書くスペースの確保、リアルタイムでの記録ではなく、時差が生じていた。
- ・バイタル測定・・・測定する際にメモを用意し記載、その後別途介護記録に転記する業務時間が発生(血圧測定、体温測定、酸素飽和度測定)
- ・各種、法令順守に必要な研修、会議(担当者会議も含む)、訓練(BCP、感染症等)の議事録作成の時間を各研修、会議毎に発生。

上記、ケア以外での時間が発生する事で入居者様との時間確保、個別ケア時間に苦慮していた。また残業が発生する時間も要していた。

3 具体的改善方法

①介護記録の電子化:スマートフォンでの記録入力(各ユニット2台、管理者PC管理、操作)

- ・Notice電子記録アプリ(商品紹介HP: <https://abst.sakura.ne.jp/notice.html>)
- ・スマートフォンを持ち歩く事でリアルタイムで記録を入力(食事、水分、排泄、入浴、担当者会議、申し送り、ケアプラン記録)全ての記録をスマートフォンで入力し他の職員もリアルタイムで他者入力記録を確認することができる、また電子記録を苦手とする職員にも対応するよう打ち込みではなくvoice機能を活用し文字起こしによる記録入力を可能とする。

②スマートフォンとBluetooth連携によるバイタル測定自動記録の実施

- ・測定後の記録時間の短縮、バイタルデータを日常的にリアルタイムで把握し異変にすぐ対応。また記録漏れや情報伝達ミス削減。管理者PC連動により医療機関関係者へ情報提供する際に期間を定めデータによる見える化。

③音声文字起こし議事録作成: (noman)

研修、委員会、担当者会議等音声録音からAIによる要約議事録作成の活用にて職員の議事録作成時間の短縮。

4 改善の効果(改善後)

①業務効率化

- ・ICT(記録の電子化、音声入力)を導入する事で、介護職員の負担を軽減し時間を創出することができた。

②ケアの質の向上

- ・バイタルデータ(血圧、体温、水分、食事量、体重等)をリアルタイムで把握する事で、介護職員間での情報共有が迅速となり、医療関係者やご家族様への情報提供精度が高まった。(病院受診等ではグラフデータへ変換し持参する事で情報提供)
- ・介護記録業務時間の短縮により、入居者様への個別ケアに集中できた。
- ・入居者様の様子をその都度記録(コメント、スタンプ、数字入力)する事で、データの蓄積と可視化により根拠に基づくケアが可能となった。
- ・国の方針、制度を活用できている。

(経済効果がある場合は下記を記入してください。)

			左記数字の算出根拠
経費節減	19,249	円/年	【経費節減】 (介護記録用紙A4)1枚/人/日×365日×18人×0.85円/枚=5,584円 (バイタル等チェックシート用紙A3)1枚/ユニット/日×365日×2ユニット×8項目×2.34円/枚=13,665円
収入増加	23,068	円/年	【収入増加】 (生産性向上推進体制加算)単位10×単価10.68円×入居者18名×12ヶ月=23,068円
時間短縮	1,068	時間/年	【時間短縮】 (介護記録電子化)1ヵ月6時間×12ヶ月×14人=1,008時間 (音声文字起こし議事録)5時間×12ヶ月=60時間

(採点基準)
※自動計算

2,178,317円

5 所感

電子機器導入後、介護記録に係る時間が削減でき、入居者様の状態が可視化されました。他職種での情報交換がスムーズになった事により、入居者様の健康管理に役立っています。何より、時間を捻出できた事により入居者様の時間が増え、スタッフが業務に追われる姿が軽減できたと感じます。機器導入時はスタッフ間で苦手意識も見受けられましたが、使用していく中で便利さに気づくことができ、また、専門的な視点で入居者様の状態を確認できるスキルを身につけることができたのではないかと感じます。